

いつも一緒 富山のペットたち

近年は飼育環境や食生活の変化により、ペットの寿命も延びています。長生きはうれしいことですが、高齢になると体が老化し、免疫力も低下するため、病気にかりやすくなります。今回は高齢の犬や猫に多く見られる病気と治療法について解説します。



三崎 朗子

みさき動物病院獣医師
(高岡市京田)

加齢に伴う病気

犬や猫が年を取ると、心臓や腎臓、甲状腺の病気が増えてきます。これらは命に直接かかわるだけでなく、他の病気の治療の障害になることもあるので注意が必要です。代表的な病気について説明しましょう。犬の僧帽弁閉鎖不全症は、心臓内の逆流を防ぐ僧帽弁の形が変わり、血液が逆流して心肥大や循環障害を引き起こす怖い病気です。せきや疲れやすくなるなどの初期症状が現れ、進行すると失神や、肺水腫による呼吸不全が起こります。治療には、血管を広げる薬や強心剤、利尿剤などを使います。激しい運動や興奮を避けること、塩分を含む人間の食べ物を与えないことも大切です。

食欲不振、嘔吐も
慢性腎不全は犬にも猫にも見

られる病気です。初めは尿の量が増え、進行すると体重減少、食欲不振、嘔吐などの症状が出てきます。飲む水の量や尿の量が増えたら、まずは尿検査をしてもらおうとよいでしょう。飲み薬や皮下静脈点滴による治療のほか、

適切な治療で快適に

腎臓に負担をかけない食事療法も悪化を防ぐために有効です。

猫の甲状腺機能亢進症は、甲状腺からのホルモンが出過ぎることによって起こります。たくさん食べるのに痩せてきた、よく鳴く、興奮しやすくなった



健康診断中の15歳の老犬。人間では80〜90歳に当たる

で甲状腺を取ったりする方法がおすすめです。これらの病気は、いずれも完治は難しいのですが、適切な治療をすれば、快適な生活が送れる可能性があります。このほか、加齢とともに免疫

力が低下し、腫瘍性疾患も増えてきます。治療は多くの場合、手術による腫瘍の切除と、必要に応じて抗がん剤の使用を組み合わせます。どちらもしスクの高治療法ですが、治るケースが少なくないのも事実です。最近では、温熱療法や光線力

学的療法などの局所療法、腫瘍に対する免疫を増強させる活性化リンパ球療法が、副作用の比較的小さい治療法として取り入れられ始めています。

普段の様子を観察

最後に、多くの老犬、老猫が患う関節炎と脊椎症について説明します。この病気になることで、関節の炎症や変形に伴い、痛みが出たり動きが制限されたりします。治療は、鎮痛剤で痛みを抑えます。レーザーやマッサージなどの理学療法、グルコサミンなどのサプリメントの使用も効果が期待できます。

症状が進むと、排せつや移動に介助が必要になり、寝たきりの原因になることもあります。関節への負担を増やさないために、体重を適正に保ち、過度の運動は避けてください。

ペットは加齢とともに、かかる病気の種類が増えていきます。でも「年だから」と諦めて

はいけません。治せるものはしっかりと治し、治せない病気は治療の目標を持ちましょう。普段から食事や排せつの様子をよく観察し、ブラッシングや歯磨きなどのスキミングで体をよく触ってあげるといいです。体重を定期的に量ることも大切です。ペットの小さな変化に早く気付けるように、できるだけ早くから始めてください。

「いつも一緒 富山のペットたちは、毎月第1木曜日に掲載します。」

2012(平成24)年6月7日
北日本新聞